



ANNIVERSARY

医療機関・施設

病院・診療所・介護老人保健施設



60 周年の節目に、活発に噴煙を上げる十勝岳。

社会福祉法人北海道社会事業協会 富良野病院（富良野協会病院）

院長 古川 博之

〒076-8765

富良野市住吉町1番30号

TEL 0167-23-2181（代表）

FAX 0167-22-4256

WEB <https://ssl.hokushakyo.jp/furano-hospital/>



富良野協会病院は、1940年（昭和15年）に北海道社会事業協会の拠点病院の一つとして開院し、1976年（昭和51年）には富良野圏域の「地域センター病院」に指定されております。これによって、病院がカバーしている富良野圏域は、北から上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村に至り、その面積は2183km²と広大で、東京都の面積（2,200km²）とほぼ同じです。

今ある病院は、2007年（平成19年）5月にJR富良野駅前に255床の病院として新築移転したものです。2025年（令和7年）4月より、199床の病院として（急性期病床100床、地域包括ケア病床50床、障害者病床45床、感染症病床4床）地域の基幹病院として24時間患者の受け入れを行っております。

診療は、内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、耳鼻咽喉科、皮膚科、心臓血管外科、乳腺外科など14診療科で行っており、年間入院件数は延べ62,380件（1日平均稼働病床170.9）、外来件数は延べ127,618件、（1日平均稼働病床527.3）、年間手術件数は1,039件、分娩件数54件となります。（いずれも2025年の実績）

富良野圏域の救急医療体制は、それまで休日夜間診療所や開業医の輪番制などで一次救急に対応していましたが、2009年度（平成21年度）より、富良野協会病院に1次救急を集約して、それまで対応してきた2次救急とも合わせて当院で担うようになりました。当初多かったコンビニ受診も市民に訴えかけることで減少しました。2025年度（令和7年度）の救急外来総患者数は、4,557名であり、1次救急3,610名、2次救急947名です。救急車搬入数は840件であり、うち内89名を3次救急医療機関に搬送しています。また、ドクターヘリによる搬送は4名でした。

富良野圏域の人口減少と高齢化にともなって、医師や看護師をはじめとする医療従事者の不足、そして医療機関の経営環境の悪化など、地方の医療は大きな転換点に立っています。特に広大な富良野圏域においては、「いつでも、どこでも、必要な医療を受けられる」という安心をどのように次の世代へ引き継ぐかが、私たちに課せられた大きな使命ですこれからも富良野の医療機関はもちろん、旭川の医療機関とも連携しながら、富良野医師会とともに地域の皆さまにとって安心できる質の高い医療を目指して行きます。

医療法人社団 ふらの西病院

院長 松田 英郎

〒076-0038

富良野市桂木町 2-77

TEL 0167-23-6860

FAX 0167-22-3508



ふらの西病院は、平成3年10月158床の一般病院として開業し、今年10月で35周年を迎えようとしています。

地域に根ざした優しく、患者さん中心の医療の提供を開院以来のスローガンとして日々診療を行なっております。

平成8年に医療法人化し、当地域初の訪問看護ステーション「青いとり」を開設し、在宅患者さんに対してしましても必要なケアを行なっております。地域の人口変遷やニーズに伴い平成15年より一般58床、療養型病棟84床のケアミックスとし、令和2年より介護医療院ふらのを開設し一般58床、療養型病棟39床、介護医療院40床とし、施設や在宅でも対応不能である長期療養、慢性期療養の患者さんの安心できる場所として地域の役割を担わせていただいております。

一般内科を中心に、高齢者の患者さんの多くが悩まれる認知症や脳血管疾患、循環器疾患、認知症に深く関わると考えられる眼科疾患に関しましても専門性をもって診療しており、急性疾患加療後の慢性期リハビリが必要な患者さん方の受け入れ先として機能しております。

他、企業健診、産業医活動を積極的に行い富良野で働く雇用者の安心に寄与し、介護施設（社会福祉法人あさひ号）との連携を行い、空知管内の後方支援病院として活動させていただいております。

現在は内科2名、外科1名、眼科1名の4名体制となり、リアルタイムに院内連携や相談もできる様になりました。地域医療の充実を目的とし積極的に病院連携を図り、また患者さんのニーズやより便利な受診環境を整えるためDX化にも邁進しております。

社会医療法人 博友会 北の峰病院

院長 久保 昌己

〒076-0016

富良野市 2026 番地

TEL 0167-22-2011

FAX 0167-23-1606

WEB http://www.hakuyukai.or.jp/?post_type=kitanomine



私たちの住む富良野は、十勝岳連峰を眺められる大自然に恵まれ、心の豊かさを感じる癒しの空間にあります。富良野圏域における精神科医療を考える上で「癒しの空間」は、地域の特殊性を重要視した最適な場所と考えます。私たち北の峰病院は、富良野圏域における唯一の精神科病院として開設され、地域社会に身近に感じられる医療機関として数多くの患者様に御利用頂いております。今後も、地域医療を目的に、病院連携を図り、精神科疾患に対する迅速な診断、治療、早期の社会復帰に努め、地域コミュニティの構築を図ります。

開設 昭和 55 年 7 月 1 日

病床数 170 床

会員紹介

院長	久保 昌己
副院長	西出 和正
副院長	門田 智則
医局長	野村 智昭
医師	前田 慶太郎

上富良野町立病院

院長 白田 克美

〒076-0561

上富良野町大町3丁目2番15号

TEL 0167-45-3171

FAX 0167-45-4578

MAIL byouin@town.kamifurano.lg.jp

富良野医師会創立60周年記念にあたり

上富良野町立病院は、昭和33年9月に内科、外科、産婦人科を標榜して開設し、時代の変化とともに診療体制を見直しつつ、地域医療の砦としての役割を果たしてまいりました。

長年の課題であった施設の老朽化に対し、関係各位のご尽力とお支えにより、令和7年5月1日に待望の新病院（一般病床30床、介護医療院40床）が開院いたしました。富良野医師会創立60周年という節目の年に、真新しい病院で新たな一歩を踏み出せましたことを深く感謝申し上げます。

現在の常勤医は、内科担当の私と、外科・救急担当の兼古副院長の2名しかいません。そのため、富良野協会病院をはじめ、旭川医科大学、旭川赤十字病院、旭川療育園などからの出張医による専門外来や当直のご支援をいただきながら、何とか地域医療の灯を守り続けております。

私が平成15年4月に着任してから23年が過ぎ、定年までもあとわずかとなりました。限られた時間ではありますが、皆様のご協力をいただきながら、地域の診療に全力で当たってまいり所存です。引き続きよろしくお願い申し上げます。

医療法人カワムラメディカル かわむら整形外科

院長 川村 大介
副院長 倉 秀美
名誉院長 川村 五郎

〒076-0011

富良野市末広町 6 - 20

TEL 0167-22-4341

FAX 0167-22-4362

MAIL info@kawamuraseikei.jp

WEB <https://kawamuraseikei.jp>



地域とともに歩む整形外科医療

外来・画像診断から保存的治療、手術、リハビリ、その後の生活まで

かわむら整形外科は、1970年12月15日、川村五郎名誉院長が富良野で開業し、本年12月に開院56周年を迎えます。以来、地域の皆さまが住み慣れた場所で必要な整形外科医療を受けられるよう、外来診療を基盤に、画像診断、保存的治療、手術、入院、リハビリテーション、骨粗鬆症評価・再骨折予防に取り組んできました。現在は19床の有床診療所として、医療・介護・福祉の関係機関と連携し、治療後の生活まで見据えた支援を目指しています。

外来診療と保存的治療を基本に

外来では、膝・股関節、脊椎、肩、外傷など、子どもから高齢者まで幅広い運動器疾患を診療しています。MRI、CT、骨密度測定装置、超音波などを活用し、病態を丁寧に評価したうえで、患者さんと相談しながら治療方針を決めています。治療は、薬物療法、注射、装具療法、運動器リハビリテーション、生活指導などの保存的治療が基本です。それでも痛みや機能障害が改善せず、日常生活への影響が大きい場合には、手術を選択肢として検討します。

必要な場合には手術・入院治療

手術が必要な患者さんには、人工膝関節全置換術（TKA）、人工膝関節単顆置換術（UKA）、人工股関節全置換術（THA）、脊椎手術、肩関節手術などを行っています。膝関節手術では長年にわたりナビゲーションを活用し、ズレのない正確な手術を心掛けています。19床の入院機能を生かし、医師、看護師、リハビリスタッフ、診療放射線技師、事務職などが連携して、手術後の回復から退院後の生活まで支えて

います。また、広い富良野圏で通院が難しい方のため、長年にわたり送迎にも取り組んできました。

治療から回復、その先の生活へ

治療後の回復と、将来の予防

保存的治療でも手術後でも、痛みを和らげ、身体機能を回復し、再び日常生活へ戻るためには、継続したリハビリテーションが重要です。当院では、入院中から外来・通所リハビリへとつながる支援を行い、一人ひとりの目標に応じた機能回復を目指しています。また、高齢者の骨折では、その背景にある骨粗鬆症を見逃さないことが大切です。骨密度測定や血液検査を基に評価し、骨折リスクに応じた治療を行うとともに、骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）により多職種で治療継続を支援しています。歯科医師、薬剤師とも連携し、安全な治療と再骨折予防に取り組んでいます。

地域の皆さまとともに

地域医療は、一つの医療機関だけで成り立つものではありません。富良野医師会の先生方、歯科医師、薬剤師、行政、介護・福祉関係者、救急隊、そして地域の皆さまの支えがあって、私たちの診療があります。富良野医師会創立 60 周年の節目に、これまでのご支援に深く感謝申し上げます。当院も本年 12 月に開院 56 周年を迎えます。これからも、地域に必要とされる整形外科医療を着実に続け、患者さんがその人らしい生活を取り戻せるよう、職員一同取り組んでまいります。

医療から介護・生活支援へ

カワムラメディカルグループは、医療法人カワムラメディカル、社会福祉法人エコライフまどか、株式会社 e- ケアで構成され、その中心を担うのが富良野のかわむら整形外科です。それぞれの法人が専門性を生かし、医療、リハビリテーション、介護、住まい、生活支援を必要に応じてつなぐことで、患者さんご家族が地域で安心して暮らし続けられる体制づくりを進めています。

カワムラメディカルグループ多職種による支援体制（2026 年）	
医療法人カワムラメディカルかわむら整形外科	87 名
株式会社 e- ケア	30 名
社会福祉法人エコライフまどか	55 名
グループ合計	172 名



医療法人社団 かとう整形外科クリニック

院長 加藤 健

〒076-0031

富良野市本町 6 番 8 号

TEL 0167-22-3795

FAX 0167-22-9910



◇クリニック沿革

1967（昭和 42）年 11 月、父加藤健治郎が現在地に有床診療所「加藤内科医院」を開業。

1976（昭和 51）年、全面的な建替えにより現在の外観となる。1993（平成 5）年入院を廃止し無床診療所に。2001（平成 13）年 9 月より、整形外科医である小生が加わり、内科・整形外科の二科体制で「加藤クリニック」としてスタート。2005（平成 17）年 8 月、「医療法人社団 かとう整形外科クリニック」となり、現在に至る。

◇最終学歴

昭和 60 年 順天堂大学医学部卒

◇職歴

昭和 60 年 順天堂大学医学部整形外科学教室入局

同 62 年 山梨県立中央病院整形外科勤務

平成元年 東京労災病院整形外科勤務

同 2 年 石川島播磨重工業健康保険組合病院整形外科勤務

同 3 年 福島整形外科病院勤務

同 4 年 伊豆通信病院（現 NTT 東日本伊豆病院）リハビリテーション診療科勤務

同 6 年 順天堂大学医学部整形外科学教室助手

同 8 年 多摩南部地域病院整形外科勤務

同 9 年 老人保健施設ふらの勤務（施設長）

同 13 年 「加藤クリニック」院長就任

同 17 年 8 月 「医療法人社団 かとう整形外科クリニック」理事長・院長就任

医療法人社団 内海内科クリニック

院長 内 海 真

〒076-0018

富良野市弥生町6番31号

TEL 0167-39-1133

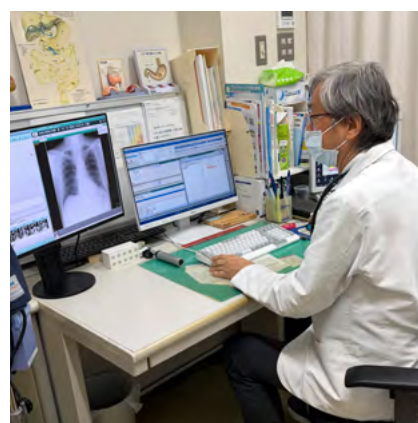
FAX 0167-23-6672



院長は、昭和55年（1980年）10月から2年間富良野協会病院内科で勤務後、旭川医大病院、市立旭川病院消化器内科での勤務を経て、昭和61年（1986年）10月から再度協会病院勤務。延べ13年の協会病院勤務後、平成9年（1997年）9月現在地にて開業し、来年（2027年）30周年となります。

副院長（内海辰哉）は、2011年旭川医大卒業後、2年間協会病院で初期研修し、旭川医大、旭川厚生病院消化器内科での勤務を経て、2021年4月より当院で水曜・金曜日の診療担当をしております。スタッフとしては、開業当初より2名の看護師と看護助手1名、ほか事務3名（1名は管理栄養士&糖尿病療養指導士）の体制を維持しております。

今後も富良野地域の「かかりつけ医」としての機能を果たすため、ハード面では、2年前に上部・下部消化管内視鏡システムを一新し、超音波検査装置とデジタルX線システムと併せて初期診療の充実を図り、今春には2003年に導入した電子カルテを新しくクラウド型に移行し、ソフト面でも、少しでも在宅医療の助けになるような体制構築も視野に入れているところです。



ふらの消化器・内科クリニック

院長 中野 靖 弘

〒076-0024

富良野市幸町 9 番 12 号

TEL 0167-56-7058

FAX 0167-56-7059



当クリニックは、2014 年（平成 26 年）5 月に開院し、今年で 13 年目になります。現在、医師 1 名、スタッフ 5 名で日々の診療にあたっています。地域の皆様が何でも気軽に相談できる「かかりつけ医」としての役割と、消化器疾患における専門性の高い医療の提供を両立し、小規模ならではの小回りの利く診療が可能です。

風邪や生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症）といった日常的な病気から、腹痛、胸やけ、便秘、下痢といったおなかの不調まで、幅広い内科全般の症状に丁寧に対応いたします。

また、各種ワクチン接種、健診も行っています。

当院の特徴

- ・当院で可能な検査：血液・尿検査、心電図検査、血圧脈波検査、視力・聴力検査、胸部・腹部 X 線検査、上部・下部内視鏡検査、腹部エコー検査、頸動脈エコー検査、甲状腺エコー検査、院内ピロリ菌検査（ユービット）、骨塩定量検査、院内迅速血液検査（末梢血、CRP）、コロナ / インフルエンザ抗原迅速検査、溶連菌抗原迅速検査、等
- ・内視鏡検査（胃カメラ・大腸カメラ）：今年の春に内視鏡システムを更新し、最新機器を導入しました。より高解像度で細径のスコープにより、患者様の負担を最小限に抑え、病気の早期発見・早期治療に力を入れています。また、院内にピロリ菌検査機器を導入しており、約 20 分でピロリ菌の有無判定が可能です。胃や大腸の健康に不安がある方は、ぜひご相談ください。

- ・丁寧なカウンセリングと分かりやすい説明：患者様のライフスタイルやご不安に寄り添った診療を心がけています。専門用語をできるだけ使わず、検査結果や治療方針について分かりやすく説明いたします。

「かかりつけ医」には専門医療機関への橋渡しの役割も求められており、当院は地域医療の入り口になることが務めだと思っています。「最近なんだか調子が優れない」「健診で再検査を指摘された」「おなかの痛みが気になる」など、どんな小さなことでも構いません。地域の皆様の健やかな毎日をサポートするため、スタッフ一同、あたたかい医療の提供に努めてまいります。

患者さんが「まずは診てもらおう」という第一歩を踏み出すために、病状にかかわらず身体に不安があれば気軽に相談していただければと思います。

ふらの皮フ科

院長 西 薫

〒076-0057

富良野市住吉町 3-33

TEL 0167-22-0208

FAX 0167-23-0000

WEB hifuka.hokkaido.jp

1. 病院紹介

ふらの皮フ科は、2016年（平成28年）2月2日に北海道富良野市に開院いたしました。富良野・空知・上川地方の地域住民の皆様の皮膚の健康を支えるため、地域に根差した医療を提供しています。

2. 診療内容と治療機器

当院では、一般的な皮膚科診療に加え、専門的な機器を用いた治療や小手術を行っています。

・対応可能な治療・処置：

- 局所麻酔下での簡易な手術（大きな手術が必要な場合は大学病院等を紹介）
- 陥入爪（巻き爪）の治療：Dr. ショールやつけ爪を用いた矯正
- 紫外線による治療：乾癬、白斑、掌蹠膿疱症などの治療
- 美容・自費診療：レーザーによる治療
- その他：点滴スペースを完備。採血検査（結果は翌日以降）も実施しています。

・主要な治療機器：

- Qスイッチルビーレーザー：黒色や褐色のしみの治療に使用。
- CO2レーザー：盛り上がった腫瘍（いぼ等）の治療に使用。
- サージトロン：切除や止血に使用。

・対応できないこと：

- 脱毛レーザー、色素レーザー（血管腫や刺青除去はできません）。
- レントゲン検査。

3. 当院の特色

- ・ガイドラインに基づいた質の高い医療：院長は14年以上にわたり北海道内の病院で皮膚科診療に従事した経験を持ち、皮膚科専門医が不在な地域で標準的なガイドラインに沿った治療が受けられない患者様がいる現状を改善したいという強い思いで開院しました。
- ・通院の利便性：平日に仕事や学業で忙しい方でも受診できるよう、土曜日の午前診療を行っています。
- ・柔軟な連携：院内で対応が難しい大きな腫瘍や特殊な症例については、大学病院等と連携し、適切な紹介を行える体制を整えています。

4. 今後の展望

ふらの皮フ科は、今後も富良野近郊（上富良野、中富良野、南富良野、占冠など）の皆様に貢献し続けることを目指しています。

- ・満足度の追求：一般皮膚科の診療を軸としながらも、患者様の幅広いニーズに応えるため、美容皮膚科分野の診療も充実させ、より多くの方が満足できる医療を提供していきます。
- ・地域医療の質の向上：常に質の高い治療を維持し、地域の皆様が安心して皮膚の悩みを相談できる「身近な専門医」としての役割を果たしてまいります。



山部診療所

所長 小山内 裕昭

〒079-1563

富良野市山部東町 7-34
山部いきいきセンター内

TEL 0167-56-7088

FAX 0167-56-7287



平成 26 年 10 月に山部地区にあった唯一の診療所が閉院し、山部いきいきセンターに博友会が、診療所を開設していましたが、令和 4 年より富良野市が診療所を開設し、富良野医師会と富良野協会病院で医師・看護師・医療事務等の医療従事者を派遣することで、診療所を継続しております。

診療日は毎週水曜日・木曜日の 13：30 ～ 15：30、2 時間と短いですが、今後も継続できるよう、旭川医大等と連携しながら頑張っているところです。

なかふらのクリニック

院長 水野 正巳

〒076-0761

中富良野町西町 3-25

TEL 0167-44-2020

FAX 0167-44-2470



富良野医師会創立 60 周年の佳節を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

また、富良野圏域の地域医療の発展に多大なるご尽力を賜り、誠に感謝申し上げます。

「なかふらのクリニック」は町内唯一の医科医療機関であり、令和 6 年 4 月 1 日に「国民健康保険中富良野町立病院」を閉院し、無床診療所としてスタートをしました。

無床診療所に転換後は、従来の外来機能をはじめ、新たなサービスとして訪問診療を開始しました。

また、予防接種や健康診断など町の保健事業についても連携を図りながら実施しており、「国民健康保険直営診療施設」としての役割を担っているところです。

当クリニックの近くには、町のシンボルである北星山があり、ラベンダーの香が漂う時期には多くの観光客が訪れています。

そして、今冬にはその北星山の頂上に日本航空株式会社との連携事業として、「JAL オーベルジュ富良野」が開業を迎えようとしています。

多くの皆様に中富良野町へお越しいただきますよう、心よりお待ちしております。

渋江医院

院長 渋 江 久

〒 071-0544

上富良野町栄町 2 丁目 2-5

TEL 0167-45-2013

FAX 0167-45-5353



略歴

昭和 22 年 5 月 12 日生まれ

昭和 47 年 3 月

昭和 47 年～昭和 52 年 6 月

昭和 52 年 7 月

日本医科大学卒業

北海道大学第一内科

現在地にて開業

小野沢整形外科

院長 小野澤 敏弘

〒076-0562

上富良野町南町2丁目1054-301

TEL 0167-39-4177

FAX 0167-39-4188



5月の温室

上富良野 25年 小野沢整形外科

子供たちも大学進学した55歳。人に使われるだけでなく人を使う経験も必要と考えて開業した。上富良野を選んだのは趣味の農業とマラソンが出来てそこそこ人口が有って空港に近いから。

開業25年。70歳まで続ける予定だったが今や80歳。戦争と同じで始めるより終わる方が難しい。地域、職員の要望が有り、自分の体力、気力のある間は続けることになりそう。

診療は病歴と理学所見、特に触診で診断することを心がけてきた。検査は診断を補足、確認するためのものとの位置づけ。さらに手術が出来なくなった分は徒手療法に力を入れている。AKAをベースにした関節モビリゼーション、マッケンジー法、筋エネルギー法などを使っている。これらで軽快した、例えば腰痛の患者さんには痛みが出る動作、姿勢に注意して1週間後も痛みが残っていたら再来してくださいと説明する。ほとんどの人は再来しない。定年退職後に北海道を旅行しているという患者さんが腰痛で受診。手を使って診察してもらったのは30年ぶりと言っていた。

温室を併設している。3月のソメイヨシノなど外に雪の残る時期に花が咲き、楽しみにしてくれる患者さんも多い。

無駄な検査や治療を省き医学的なSOAPのみに基づく医療で経営が成り立つのか開業当初心配ではあったが何とかやってこれた。

だが経営環境は年々厳しさを増している。保険点数の上がらない中、人件費増、諸経費増、人口減。今まで年々院長の給料を減らしてバランスを取ってきた。今や職員並みの給料になっている。80歳の今。年金も配当もある。仕事も趣味のうちと割り切れれば職員以下の給料でも何とかやって行けるのかなと思っている。

村立占冠診療所 村立トマム診療所

院長 遠藤 芳夫

占冠診療所（火・木・金）

〒079-2201

勇払郡占冠村中央

TEL 0167-56-2369

FAX 0167-56-2379



トマム診療所（月・水）

〒079-2205

勇払郡占冠村字上トマム2416

TEL 0167-57-2024

FAX 0167-57-2066



村立占冠診療所ならびに村立トマム診療所は、占冠村の地域医療を支える施設として、村民の健康維持と受診機会の確保を担う重要な役割があります。両診療所は内科を標榜し、日常的な疾患の治療を行う「1次診療（初期医療）」を主に提供しています。

急性期の体調不良から生活習慣病といった慢性期まで幅広く対応するほか、住民・企業の健康診断や各種予防接種、保健指導などの予防医療を通じて疾病の早期発見や重症化防止に努めています。

広大な村内において、それぞれの地区に深く根ざした「かかりつけ医」として機能しています。

さらに、近年ではトマムリゾートをはじめとするトマムエリアの観光需要拡大に伴い、急増する国内外の観光客への緊急医療対応や多言語対応の推進、キャッシュレス決済といった観光医療インフラとしての役割も強化しています。

南富良野町立診療所

院長 黄 士 哲

〒079-2403

空知郡南富良野町字幾寅 617 番地 47

TEL 0167-52-2414

FAX 0167-23-0000

MAIL hospital@000.00

WEB <https://ssl.hokushakyo.jp/furano-hospital/>

昭和44年の開設以来、南富良野町立幾寅診療所は、南富良野町における地域医療の中心的な役割を担い、幾寅地区を中心とした町民の健康と生命を守る医療機関として、半世紀以上にわたって地域に根ざした医療を提供し続けてきました。本町は人口約2,000人の小規模自治体ですが、町域の広がりや地形的な特性から、幾寅・金山・落合の三地区に町立診療所を配置し、それぞれの地域住民が身近な場所で医療を受けられる体制を整備しています。幾寅診療所は、この三診療所の中核として機能し、毎年約5,000人弱の患者を診療しており、内科を主として、地域住民の日常的な医療ニーズに対応しています。

こうした地域医療体制の中で、限られた医療資源の中で、医師1名が複数の診療所の診療を担当する体制は、医師の負担が大きく、診療の質と患者サービスの向上を図るための課題となっています。しかし、こうした困難な状況の中にあっても、幾寅診療所は町民のかかりつけ医として、疾病予防、健康維持、在宅療養支援を通じて、地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、日々の診療に取り組んでいます。

平成28年8月、南富良野町は台風10号による甚大な被害に見舞われました。この災害により、幾寅診療所も被災し、診療機能が失われました。町は臨時の診療所を設置し、町民への医療提供を継続しましたが、この過程で患者データが被災して紛失するという課題が生じました。この教訓から、診療所の機能向上と医療情報の管理体制を強化する必要性が認識されました。平成29年度には、幾寅診療所に電子カルテ導入が実現され、万が一の災害時においても患者データが保護される体制が整備されました。同時に、施設の充実にも力が入れられており、令和2年度には発熱外来増改築工事が実施されるなど、患者が安心して診療を受けられる環境整備が進められています。また、令和3年度からは、幾寅診療所

は町営化され、町立の三診療所全体の運営体制が一体化されました。これにより、経営体系の一体化や患者数の実態に応じた診療体制の再構築が進められ、地域住民の健康増進と地域医療の推進に向けた取り組みが強化されています。

現在、高齢化や医療ニーズの多様化が進む中で、幾寅診療所では対応できない高度で専門的な医療については、富良野圏域の二次・三次医療機関との連携を図っています。特に、休日・夜間の一次救急及び高度医療については、広域救急医療対策により富良野協会病院との連携を進めており、町民が緊急時に迅速かつ適切な医療を受けられる体制が構築されています。また、地域医療の充実には、治療だけでなく予防医療の推進が不可欠であり、幾寅診療所は、町の保健事業と連携し、特定健康診査、がん検診、予防接種など、町民の健康づくりに関わる多くの事業に携わっています。これらの取り組みを通じて、町民が健康寿命を延伸し、住み慣れた地域で安心して生活し続けられるよう支援しています。

少子高齢化が進む中、南富良野町のような小規模自治体における地域医療の維持は、全国的な課題となっています。しかし、本町の診療所は、限られた医療資源の中で、町民の身近なかかりつけ医として、また地域医療の中核として、その役割を果たし続けています。今後も、医療情報化の推進、医療機器の充実、医師の負担軽減と処遇の改善、そして富良野医師会をはじめとした関係医療機関との連携強化を通じて、町民が安心して医療を受けられる体制の構築に努め、地域に根ざした医療の提供に全力で取り組んでいく所存です。



けん三のこば館クリニック

院長 下 田 憲

〒079-2403

南富良野町幾寅 617-22

TEL 0167-52-2424

FAX 0167-52-2752



【沿革】

町の人が集まってイベントを開けるように平成13年に建てたホール「けん三のこば館」の建物を利用して、平成16年に開院。

【診療内容・特色】

診療科は内科・小児科・心療内科を標榜しています。

治療方針は「悪い薬は用いません。悪い治療も選びません。体を癒すだけでなく、心の癒しも目指します。」です。

東洋医学と西洋医学を併用し、目指すは安上がりの医療です。そのために、毎日患者さんに無償で行っているのが鍼治療です。手間はかかりますが、余計な薬は使わずに済みます。副作用がなく、何よりも安価で良質な医療を提供できます。

西洋医学的治療だけでは十分な効果が得られなかった体の痛みや強張り、アトピーや喘息、めまいや膠原病などで悩んでいる方達へ広く東洋医学的治療を提供しております。西洋医学は病気を治す治療ですが、東洋医学は体を治す治療です。道内各地や遠くは本州からも東洋医学的治療を求めて来院されます。

心療内科の患者さんにはカウンセリングで対応しています。心理カウンセラーによる診察前カウンセリングを実施して心の悩みや心配事の相談にも時間をとってゆっくり話を聴いています。心の傷や病は薬では治せないと考えているからです。診察室でも時間を取り、さらに深く患者さんの心と向き合います。

クリニック名の通り、クリニック内には直筆のたくさんの「こば」を掲げています。この「こば」は患

者さんとのふれあいで頂いたものです。患者さんの心の声です。だから、患者さんが「ことば」を自分のこととして置き換えて読み、心に響くのでしょう。「このことばは自分の為にかかれている」と感じて涙を流していられる方がたくさんいます。

また、クリニック内7か所に毎週花を活けて飾っています。毎回、花を見るのを楽しみに来院される方も少なくありません。

ことばもお花も実物です。バーチャルやインターネットの世界では感じることのできない「本物」だからこそ感じるができるものを大切にしたクリニックです。

病を否定的な面だけでとらえるのではなく、肯定的にとらえて楽しく生きる糧となるよう診療を行っていることが認められ、平成26年に日本医師会赤ひげ大賞を受賞しています。

【地域医療への取り組み】

地域住民の受診の送迎や往診を行い、南富良野町に根差した医療を行っています。救急を作らないようにしっかりと管理し、必要に応じて入院施設のある病院につなぐのがこの地域での役割です。

地元の老人ホームの嘱託医を務め、障害者福祉施設にも往診し、地域医療の一環として取り組んでいます。



介護老人保健施設ふらの

施設長 小山内 裕昭

〒076-0057

富良野市住吉町 1-25

TEL 0167-23-3933

FAX 0167-23-3926



介護老人保健施設ふらのは、要介護認定を受けた高齢者の皆様が、住み慣れた地域やご自宅で自分らしく自立した生活を送れるよう支援する中間施設です。

施設は平成9年7月1日、市有地を借り受けて開設されました。平成12年から介護保険制度の創設により老人保健制度から介護保険制度に変更され、現在の名称である「介護老人保健施設ふらの」に変更されました。令和9年には30周年を迎えます。

当施設では、医師による医学的管理のもと、看護・介護ケアをはじめ、理学療法士や作業療法士によるリハビリテーション、栄養管理や食事・入浴などの日常サービスを総合的に提供しております。利用者様お一人おひとりの状態や目標に合わせたケアプランを作成し、夜間も安心して過ごせる体制を整えています。

明るく家庭的な雰囲気の中、利用者様の意思と個性を尊重し、尊厳を持った生活をサポート。地域や医療・福祉機関と連携しながら、頼り甲斐のある施設づくりを目指しています。

提供しているサービスは

介護老人保健施設入所

短期入所療養介護

通所リハビリテーション

訪問リハビリテーション

訪問看護ステーション

在宅介護支援サービス

介護老人保健施設 けんこう・ふらの

施設長 川 村 大 介

〒076-0011

富良野市末広町 6-17

TEL 0167-56-8000

FAX 0167-56-8001



医療と介護の連携で、地域の暮らしを支える

富良野医師会創立 60 周年を心よりお祝い申し上げます。「介護老人保健施設けんこう・ふらの」は、2018 年 4 月 1 日、富良野市に開設した医療併設・ユニットケア型の介護老人保健施設です。以来、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを支えるため、医療・介護・リハビリテーションが一体となったケアに取り組んでまいりました。

高齢化の進行や家族構成の変化により、一人暮らしや高齢者のみの世帯、いわゆる老老介護の世帯が増え、家庭だけで介護を担うことが難しくなっています。介護老人保健施設の大切な役割は、単に生活の場を提供することではなく、ご利用者の心身機能と日常生活動作を整え、介護するご家族の負担にも配慮しながら、可能な限り在宅生活への復帰・継続を支援することにあります。

当施設では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職が、それぞれの状態や生活目標に合わせたリハビリテーションを行っています。必要に応じて入所後 3 か月間の短期集中リハビリテーションを実施し、筋力や移動能力、日常生活動作の改善、転倒予防などに取り組めます。目標は一律ではありません。自宅に戻ること、施設で安全に暮らすこと、できることを一つでも増やすことなど、ご本人とご家族の思いを共有しながら支援しています。

もう一つの特色は、併設する「かわむら整形外科」との緊密な連携です。日々の健康管理に加え、肺

炎や尿路感染症などの急な体調変化にも、介護・看護・医療の各職種が速やかに情報を共有し、必要に応じて診察や検査、処置、入院へつなげる体制を整えています。高齢者の小さな変化を見逃さず、重症化を防ぐことは、安心して生活を続けていただくうえで欠かせません。

ユニットケアでは、少人数の落ち着いた生活単位の中で、一人ひとりの生活歴や習慣、個性を尊重したケアを大切にしています。施設名の「けんこう・ふらの」には、「健康になりましょう」「今ある健康をできるだけ長く保ちましょう」という願いを込めました。ここでいう健康とは、病気がないことだけではなく、その人らしく生活し、人とのつながりを保ちながら、できることを続けられることだと考えています。

カワムラメディカルグループでは、有床診療所、通所リハビリテーション、認知症対応型グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、訪問介護、ケアハウス、介護付き有料老人ホームなどが連携し、医療から介護、生活支援までを切れ目なく支える体制づくりを進めています。今後も富良野医師会をはじめ、地域の医療・介護関係者の皆様との顔の見える連携を大切にし、富良野で暮らす方々とそのご家族に信頼される施設であり続けたいと考えております。

